

所属・資格 教育学科・准教授

申請者氏名 間篠 剛留

研究課題		現代高等教育論における思想家像の比較研究
報告の概要	研究目的	本研究の目的は、現代高等教育論において思想家がどのように理解されているのかを整理・分析することによって、現代の高等教育論の傾向を明らかにすることである。思想家としては特に、デューイ及びニューマンに注目する。
	および	デューイやニューマンは、高等教育を論ずるうえで頻繁に引用される人物である。しかし、現代においてデューイやニューマンが引用されるとき、彼らの生きた時代の状況と現代の状況とを比較・整理しながら、彼らの議論が読み直されていることが考えられる。そこに、現代の高等教育論の特徴があらわれてくる。本研究では、そうした高等教育論の特徴を検討した。
	研究の概要	<p>デューイについては、米国ラーニング・コミュニティ論の文脈における彼の評価について検討を行った。ラーニング・コミュニティに関しては、学びの共同性に関するデューイの議論がその理論的礎を築いたと言われる。しかし、現代のカリキュラム改革としてのラーニング・コミュニティの展開を考えた場合、教育的な意図を強めたジョセフ・タスマンやマーヴィン・キャドワラダーの影響があった。その背景には、アカウントビリティ要求を強める現代米国の社会的状況が大きく関与していると考えられる。</p> <p>ニューマンについては、英国における議論を検討した。最も大きな流れは、大学のモデルの一つとしてニューマンの議論をとらえ、現在の主流の大学論への対抗軸を作ろうとするものである。これ以外には、彼の主著である『大学の理念』以外の著作に注目した研究や、彼の議論におけるキリスト教的価値に注目した研究などが見られる。さらには、お飾りとしてのニューマンを乗り越え、現代の状況を踏まえて改めて理念を論じていこうとする動きも見られた。こうした背景には、高等教育機関の国際教育力向上を目指す風潮や、資金配分と結びついた研究評価があると考えられる。</p>
	研究の考察・反省	<p>本研究では、デューイとニューマンそれぞれについて、現代の高等教育論における評価を検討した。それによって、アカウントビリティ要求の高まりや国際競争力の向上を目指そうとする動きが、高等教育論や、そこでの思想家像に与える影響を一定程度明らかにできた。</p> <p>しかしながら、本研究では概略を描写するにとどまった。また、比較検討という点でも課題が残る。今後は本研究成果を踏まえ、「デモクラシー」などの焦点化されたテーマに基づいた検討を行っていきたい。</p>
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学教育学会第40回大会 自由研究発表 部会6 学士課程教育・カリキュラム(2)「現代英国の高等教育論におけるニューマン」2018年6月10日、筑波大学。 ・関東教育学会第66回大会 自由研究発表 第4会場 カリキュラム「米国ラーニング・コミュニティ論の展開と日本への示唆」2018年11月24日、東洋大学。 	
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者		